

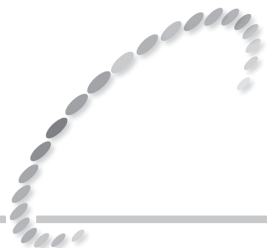
特別区議会議員講演会(平成27年度第3回)

# スポーツと地域活性化 講演録

講師：スポーツジャーナリスト  
元女子マラソン日本代表  
増 田 明 美

日 時 平成28年1月19日(火)  
場 所 東京区政会館20階会議室

公益財団法人 特別区協議会



# 目 次

|                 | 頁  |
|-----------------|----|
| 講 演 録 . . . . . | 1  |
| 質疑応答等 . . . . . | 12 |

この講演録は、平成28年1月19日に行われた講演の  
内容を集録したものです。

## はじめに

ご紹介いただきました増田です。

本日は、東京 23 区の区議会議員の皆さんたちの前で、お話をさせていただけることをとてもうれしく思います。呼んでいただきましてどうもありがとうございます。

私は、生まれは千葉県のいすみ市ですが、24 歳から東京都内で暮らしています。最初は三鷹市におりまして、その後、杉並区、渋谷区、そして今は港区です。

私がどういう目的で住みたいと思う場所を選ぶかという、まずは走れる場所です。

健康づくりというか、自分の心のぜい肉なども走っていると落ちていくもので、まずは公園が近くにあるかとか、走りたくなるような川が流れているかとか、緑が多いかということなどが基準になります。今までも井の頭公園や善福寺公園、それから神田川沿いもよく走りました。きっとお近くの方もいらっしゃるですね。それから、渋谷区に越したときは西郷山公園が大好きでよく走りました。目黒川沿いも気持ちがいいですね。

そして今は港区ですが、芝公園をよく走っています。芝公園はいつも四季折々のお花などが咲いていて、歩いている方も多いです。芝公園を走っていると、都立芝公園というのもあり区立芝公園と両方並んでいるのですが、区立のほうがきれいです。遊歩道ですとか、いろいろと工夫がされているなと思います。私は千葉県の田舎者ですが、東京暮らしが長いのです。

2015 年の 5 月に、日本財団パラリンピックサポートセンターが開設されました。これから 4 年後に向け、パラリンピック各種目でいろいろな人材を増やしていこうとする中で、資料をまとめたり、出したりする事務作業などが大変だということです。そうした中で、プロの方に細かいことをやってもらって、いろいろな面で順調に動けるようにしようとサポートセンターが開設されたのです。11 月の開所式には、SMAP のメンバーが来てくださりまして、自分たちはボランティアで応援しますということで、リーダーの中居さんが SMAP の「P」の文字をパラリンピックの「P」にしたい、と言われました。本当にスポーツに関する活動に対しても熱心です。

そもそも SMAP の「S」がスポーツだと皆さんはご存じでしたか。SMAP の「S」はスポーツ、「M」がミュージックで、スポーツや音楽などで集まって人々を幸せにしようとするパーソン、という略です。そういった縁もありますので、これからもまたスポーツ選手と一緒にいろいろなことをしてくれると期待したいと思います。

皆さんは、普段から議員活動の中で教育や社会保障、少子高齢化の問題、安全の問題などいろいろと関わっていらっしゃると思います。4 年後に東京オリンピック・パラリンピックも開催されますし、私も元マラソン選手ですので、今日はスポーツを中心としたスポーツと地域の活性化につい

てお話ししたいと思います。

レジュメも用意したのですが、この「地域振興型マラソン大会の可能性」というレジュメに関しては後半5分、10分ぐらいでお話をする予定です。そこには私が千葉県のふるさとで開催していますマラソン大会で、本当に町が元気になったということがまとめてありますので、口頭で紹介するのは後半にしたいと思います。

## 近年の盛り上がりをチャンスに

今、本当に地域が元気になる風が吹いていると思います。

というのは、まず2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。2019年にはラグビーワールドカップが開催されます。そして、オリンピック・パラリンピックの翌年、2021年がまたすごいです。関西ワールドマスタースゲームズが開催されます。

関西ワールドマスタースゲームズは、多分、ベテランスポーツ選手やスポーツ愛好家が世界各国から多く集まると思います。スポーツに詳しくない方に説明しますが、このワールドマスタースゲームズは、日本でいいましたらねりんピック（全国健康福祉祭）でしょうか。昨年も山口県で盛り上がりましたが、ねりんピックは60歳以上の方々のスポーツと文化、芸術の祭典で、その世界版というのが2021年に日本で開催されます。ワールドマスタースゲームズは、30歳以上ですが、いろいろな競技が行われてねりんピックと同じように年齢の上限がないので、どちらかというと40代、50代、60代の皆さんがたくさん集まってくる大会になると思います。

この関西ワールドマスタースゲームズには、海外から約3万人の選手、スポーツ愛好家が来ると今言われています。ねりんピックもそうですが、趣味でやられているスポーツ愛好家の方々が3万人ぐらい、日本でも2万人ぐらいが選手として参加するだろうと言われているので、関係者も含めたら大いに盛り上がっていくと思います。

スポーツは、そういった意味でよいチャンスだと思います。子どもたちの体力が下がっているから子どもたちの体力をアップさせようとか、大人もスポーツ習慣が根付けば医療費もかからず健康寿命も長くなるからこちらも頑張ろうとか、生活環境をよくするための施策なども多分皆さんも各区でいろいろなされていると思います。国際的な大きいイベントが日本に来ますと、いろいろな施策を加速する力が強まるのがまず魅力だと思います。

今、東京都でもとても頑張っている4年後の東京オリンピック・パラリンピックに関しては、最初に舛添都知事が、「パラリンピックの成功なくしてオリンピックの成功はない」とはっきりおっしゃっているのです。私はすごくうれしく思います。

私は、元マラソンランナーでパイオニアとして頑張ってきたつもりですが、なぜか組織委員会からは声が掛かりません。

でも東京都では、オリンピック・パラリンピックに関して、スポーツ振興審議会のメンバーであったり、江東区でもスポーツを盛り上げるための会議に参加しています。あとは、東京都が新たに建設する施設について検討する委員をしたりと、都での活動は多くしています。

オリンピックは放っておいても盛り上がりますが、やはりパラリンピックとセットで盛り上がっていくということが、これから世界に向けての発信としては大事なことだと思います。

### パラリンピック意識の変化

パラリンピックが変わったのはロンドンからです。2012年のロンドンオリンピックとパラリンピックから、またパレードもそうでした。ロンドンオリンピックが終わった後に、日本はさっさと銀座でメダリストたちのパレードをしてしまいました。でも、ロンドンではパラリンピックが終わるまでオリンピックの選手たちが待っていて、一緒にロンドン市街をパレードする、とそこからして違います。

2008年の北京オリンピック後のパラリンピックも、8万人の観客が入る鳥の巣スタジアムは、陸上も開会式もどの競技でも会場は満席でした。でも、あれは動員で、北京での観客はサクラだったと言われています。人海戦術という言い方は悪いかもしれませんが、それも大事だと思います。選手にとって、観客が多いのが一番盛り上がります。ですが、本当に自分の意思でスタジアムやいろいろなスポーツ会場に足を運んだというのがロンドンパラリンピックでした。あれはすばらしかったです。東京都も、舩添知事などを中心にロンドンを目標にしています。

パラリンピックの選手たちは、競技性が高く目標に向かって頑張る力はオリンピック選手と同じくありますが、やはりいろいろな文化、教育などヒストリーがもっと後ろにあるため、スポーツだけではなく、いろいろなところで一緒に一体化していったらよい発信が多くできる可能性もあると思います。

では、そのロンドンパラリンピックは、どのようにしてたくさんの人が会場に集まるようになったかということです。私は、ちょうど2012年はリポーターとしてパラリンピック取材しましたので、そのときの様子を紹介しながらロンドンのこととお話したいと思います。

もともと、ロンドンはパラリンピック発祥の地だと言われています。それで、タワーブリッジのところに、オリンピックの後にパラリンピックのマークが出ています。オリンピック前の2012年4月にヒースロー空港に着きました。オリンピックは夏ですが、4月にコースの下見に行ってい

ました。ヒースロー空港には、もうイギリスでメダルをとりそうな人たちの写真が右側に大きくパネルでありました。左に行きましたら、全く同じ大きさをパラリンピアン活躍しそうな選手たちの写真が並んでいたのです。

これは車椅子マラソンの沿道です。こちらは、自分の靴を脱いだりするかのように義足を外してプレーするシッティングバレーですが、この会場も人でいっぱいです。

水泳会場も上まで観客で埋まっています。水泳は体があらわになるので、モニターに全身が映し出されます。この水泳会場で感動したのは、観客席の一番前のほうに座っているのが子どもたちだったことです。実際に泳ぐ姿を見て、小学生同士が、格好いいね、今のターンがうまかったね、とその種目のことをよく理解して会話していました。私はすごいなと思って、衝撃的なシーンもありました。

自転車なども町の中を自由に移動できるように置かれていたり、ボランティアの方々もこのような洋服を着て道案内をしたり、選手だけではなくて皆さんが支えながら大会をいいものにしていこうとしていました。ちょっとした会場では、障害者の方々が音楽で盛り上げるというコーナーなどもたくさんありましたし、芸術的な作品なども並んでいました。

ロンドンの場合には、いろいろとストリートに名前なども書かれていました。東京でも、海外の方がいらっしゃったときにどこに行っていかわかりやすいように、また町を知っていただくためにこういうデザインもすてきだしいかな、と思って撮っておきました。

またマラソンのコースなどにも、遊び心でこういうペンキを塗って盛り上げようとしていました。地元の選手が金メダルを獲ると赤いポストが金色に塗られ、スポーツだけではなくみんなで盛り上がろうとしていたのです。

それと画期的だったのは、パラリンピックをたくさんの方々に応援してもらおうと、チャンネル4というイギリスの公共テレビ局が2年前にパラリンピックのCMをつくったのです。見てください。障害者の方がスポーツをするというと、社会福祉的、リハビリ的であったり、手がなくてちゃんと泳げるかしら、足は義足だけれども大丈夫かしら、と見る側は心配して見てしまうということが、私たち日本人の中でもあると思います。その意識を変えようと思ったのだと思います。

〔パラリンピックCM放映中〕

最初に私がこのプロモーションのCMを見たときは、ロックバンドの音楽か何かが始まったのかしらと思いました。こんな感じで、格好いいのです。アスリートの皆さんに聞いても、自分がどうして片腕がないのか、障害を持ったかと聞かれるよりも、もっと競技のことを聞いてくれ、と。どんな練習をしているのかなどの質問をしてほしいと言われます。日本の選手たちも、今同じような

気持ちで競技に取り組んでいる人が多く、レベルがすごく上がっています。

現地に行って、どうしたらあんなにお客さんが会場に集まるのですか、と大会のディレクターの方にお聞きしたら、ロンドンでは「ゲットセット」という教育プログラムを取り入れたのです、と話をしてくれました。どういうものかという、パラリンピックを見に行きたい学校を事前に募集をかけます。そうすると、手を挙げる学校がたくさんあるので、今までのいろいろな活動などが評価されて何校かが選ばれます。選ばれた学校では事前にパラリンピアンたちがその学校に来て、自分のやっている競技のことや生い立ちなどを話してくれるそうです。このように小学生、中学生の皆さんは選手たちのことを予習した上で競技を見に行きます。そこでは、できるだけ前のほうに座ってもらって一流の感性に触れられるというプログラムです。

チケット代はどうなるのですかと聞いたら、もちろんこれは勉強で子どもたちは肌で触れて感じる事が大事ですからということで無料で、そしてお弁当まで出ます。どこからお金が出ているのですか、税金ですかと聞いたら、それは違うと。1枚20万円するプレステージチケットというのを一般の人に買ってもらうそうです。そのプレステージチケットを買った人は、特別な部屋で競技期間中に食事ができて、良い席で競技を見るというメリットがあります。けれども、食べることなんて大したお金ではないのです。20万円のお金の大半が、子どもたちを会場に行かせるための交通費になったり、チケット代、お弁当代になったりしていて、驚きました。

イギリスは、パラリンピック発祥の地です。太平洋戦争が終わった後、脊髄を損傷した兵隊さんたちがいました。日本でも脊髄の損傷はありましたが、イギリスでは病院で手術をし、治療した後、ドクターが、病床でじっとしているより汗をかいただけのほうが回復が早いのだ、とあってアーチェリーの大会を1948年にストーク・マンデヴィル病院で開きました。それがパラリンピック発祥の地と言われている理由です。歴史が違うといっても、テレビでCMを流したり、ゲットセットというプログラムをつくったりと、パラリンピックに対しての意識が高まったのは本当に開催の2年ぐらい前からです、とディレクターの方が言われていました。

ですから私は、障害者の陸上の日本選手権にもどのぐらい観客が来ているかな、と思い昨年も長居陸上競技場に行き、観客席を見たら百人ほどこいなくてがっかりしてしまいました。パラリンピック当日だけではなくて今からの活動として、これからどうしたら観客が増えるかということも考えながらやっていきたいと思っています。

区もいろいろな取組があると思います。多分、今日もいらっしゃっていると思いますが、江東区はほとんどの競技が行われますから本当に動きが活発です。

山崎区長にお話を伺ったことがあります、52年前の東京オリンピックの時、選手村の食堂でア

アルバイトをしていたそうです。私はその年の生まれで、当時のことは市川崑監督の記録映画で知っているぐらいですが、山崎区長は、食堂で選手たちと交流されたそうです。いろいろな国の方々とお話をして仲よくなって、皆さんが帰るときに自然と涙がこぼれてきたと。スポーツで戦うことで、ライバルにもなるしお友達にもなるのだということを本当に身にしみて感じられて、特にいろいろな施策などを出されています。

江東区といたら、50年以上前は東京オリンピック前後の高度成長期でみんなのごみを受け持ってくれたところですよ。そこが本当の意味でこれから夢の島になっていくのだと思います。今の活動の中で、地の利を利用しているところがいいと思います。江東区は、海に面していて川や運河があり、水が彩る「水彩都市」ですが、その地の利を利用してカヌーやカヤック、セーリングに力を入れています。

そして驚いたのは、車椅子の選手に声を掛けて区の職員として採用し、その選手が今度カヌーでパラリンピックを目標にしているのです。この調子でいったらメダルをとれるのではないかと山崎区長も言われていました。総花的ではなくて、そこに限って強化を始めているというところはやり方としてうまいなと思います。その選手だって、区の職員として採用され仕事をした後も、本当に背広を脱いだらすぐ練習に行けるという環境があります。

ですから、23区も何か自分たちらしさといいますか、その区らしさのいろいろな施策が出てくるといいのではないかなと思います。そして、オリンピックとセットでパラリンピックも盛り上がっていくことが後々のレガシー、遺産として残っていくと思います。

## スポーツ選手の与える影響

私は今、中野区で教育委員をやらせていただいている、中野区は残念なことに子どもたちの体力が少し低いのです。だから、私に声を掛けていただいで一緒にいろいろな取組をしていきたいと思います。ということでやらせていただいています。

200メートルで今も日本記録を持っています、陸上の末續慎吾さんという元オリンピック選手がいます。北京オリンピックの400メートルリレーで、日本が銅メダルをとったときの4人の中の1人です。昨年の秋ぐらいにその末續慎吾さんが中野区に来てくれて、子どもたちの前でお話をして速く走れるコツも教えてくれました。そうしたら、子どもというのは一つのきっかけで変わるのですねと、ほかの教育委員の方々が驚いていましたが、その日から校庭で練習をしたり、腕振りはどういうふうに振ればいいのかとお友達に教えてあげたり、すごくいい影響が出ているというお話で皆さんが盛り上がっていました。

ですから、ロンドンもそうでしたが、オリンピック選手やパラリンピック選手を呼んで、子どもたちに豊かなその感受性でいろいろなことを感じてもらうことが大事だなと思います。

そのため、やはり一流はいいです。絵にしてもスポーツもそうです。一流の飛び方、走り方に触れるのがいいと思いますので、触れる機会を増やしてほしいと思います。それがオリンピック期間に何かやるというだけではなくて、スポーツというのは楽しいな、みんなでやるというのはいいいものだな、こういう基礎が大事だな、とわかることも子どもたちにとってはレガシーとして残っていくものだと思います。

### レガシーとしての国際理解

52年前はアジアで初めてのオリンピックでしたから、本当にたくさんの遺産が残りました。生まれていない方もいらっしゃるし、東京オリンピックを肌で感じられた方もいらっしゃると思いますが、ハードな面では新幹線、首都高が通ったということがあります。それから、今は警備会社がいっぱいありますが、世界中の方を守らなければいけないということで警備会社が設立されました。また選手村では大量の料理を同じ時間で出さなければいけないということで、今ファミリーレストランなどで行われているセントラルキッチン方式というものも52年前がきっかけだったということをお聞きます。

スポーツでも東洋の魔女がソ連に勝ったということで、ママさんバレーチームが日本全国に広がっていったといういろいろなレガシーが残っています。

成熟した日本が、これから2020年以降にどんなレガシーを残していかなければいけないかと考えたときに、やはりもっと私たちが習慣としてスポーツに触れられるようなスポーツ習慣であったり、生活習慣であったり、バリアフリーの問題であったり、子どもたちの環境をよりよくしていくことであったりいろいろあります。その中の1つに、もっといろいろな国を知る国際理解というのがあると思います。

国では、2020年までに世界からの観光客を2,000万人にしようと言われていましたが、もう今の時点で少し欠けるぐらいで5年前倒しぐらいに進んでいます。今、いろいろなテレビ番組などでも紹介されていますが、海外の人のほうが日本のよき伝統文化というのを知っています。小倉百人一首が大好きで丸暗記しているフランス人の女性の方を紹介する番組があったりしてびっくりしたのですが、クイーン戦が滋賀県の近江神宮で行われているからあそこに行きたいのだとか、お豆腐をフランスで広めたいからと京都でお豆腐作りに修行に入ったりしているのです。

では、私たちはどれだけ世界のことを知っているだろうかと考えたときに、特に子どもたちの学

校教育の中では、もっとほかの国の人たちのことを知ることが本当の意味でのおもてなしになると思います。

ある会議で元バレーボール選手の荒木田裕子さんとご一緒するのですが、荒木田さんが今 J O C（日本オリンピック委員会）の理事をやられています。2年前韓国でアジア大会が行われたとき、そこに行き表彰式でプレゼンテーターをお願いされたそうです。それで、イランの男性選手にメダルを渡した後に、荒木田さんが、おめでとうと握手をしようとしたら、その男性選手がぱっと手を後ろに組んで拒否したそうです。でも、そうだったと。イスラム教の世界では、意味なく異性同士が肌を接触することがタブーなのです。それを知らずにやってしまってその瞬間にわかったということです。

帰国後、その会議の中でも日本人は本当にもっとこういうことを知っておかないと、相手に対して失礼になってしまうこともありますよね、とお話ししてくださいました。

私もタイやインドネシアが好きで、インドネシアに4年ぐらい前に旅行へ行ったのですが、お土産を売っているところでかわいらしい女の子がいました。とてもかわいかったので、思わず頭をなでたら、母親ににらみつけられました。わかりませんでした。後で夫に聞いたら、そうだよ、タイやインドネシアというのは頭の上に精霊がいると考えられている国だから、頭に手を持って行ったらいけないよ、と言われて勉強しました。

その国の生活習慣や宗教、食べる物、お祈りなどもイスラム教はあります。そういった文化も学校の中で、また子どもだけではなくて大人もよく知ることが大事です。

やはり日本というのは島国だと思います。争いがなかったからこそ、文化などいいものもいっぱい残ったのでしょうけれども、世界のことを知らずにいることも多いです。この機会に、たくさんの国のことをいろいろな面で理解するのだ、という動きなどもこれからレガシーとして残っていくのではないかなと思います。

## マラソンでのスポーツ振興

スポーツ振興の話になりますが、今は本当に全国各地でマラソンを通しての地域活性化が多く行われています。昨年も北陸新幹線が開通したら、もう富山マラソン、金沢マラソンがスタートしたという感じです。

スポーツ振興のマラソンというのは、やはり健康が一番大事なのだという中で、子どもたちの体力をあげなければだめだよとか、大人も高齢者も健康づくりをしなければだめだよ、ということで各自治体の中でも多くやっていると思います。ですが、どの地域でも働き盛りの方々が余裕、

時間がないということで、特に働き盛りの女性などは運動不足になってしまうと思います。

マラソンがなぜ人気かという、ひとりでも自分の自由な時間に汗をかける、また続けることもできるということで、練習しているしせっかくだから大会で試してみようかしらとなります。今、第2次ブームと言われていますが、気軽にできるのがマラソンだからファンがたくさんいて、いろいろなところでマラソンが行われて走る人も多いのではないかなと思います。

いろいろなスポーツ振興がありますが、さまざまな効果があると思われる中で、最後に私がふるさとのいすみ市で行っているマラソン大会の例もお話したいと思います。東京都でもたくさんあって、マラソンでのスポーツ振興といいますともう間もなく2月に東京マラソンも行われます。それから、板橋区でも「板橋 City マラソン」があります。これは1万5,000人の方々が走りに来るということです。すごいですね。渋谷区でも女性にターゲットを絞って、「渋谷・表参道Women's Run」、と区が共催・後援しているものもありますし、中央区でも、『区民スポーツの日』マラソン大会、とマラソン大会にあわせていろいろなスポーツをしています。それでたくさんの人が集まるかと思ったら、杉並区ではまた手づくり感がある「杉並区民ロードレース大会」という100人参加の大会などもあって、いろいろな特色があると思います。

皆さんの手元に資料が置いてありますので紹介しますと、私がやっているこのいすみ健康マラソンは、都内の都市型のものとは違って田園型のマラソン大会です。これは、2008年の12月から千葉県いすみ市で開催しています。本当にのどかな田園風景を見ながらやっけていまして、沿道で応援するおじいちゃんおばあちゃんも12月で寒くて来なくなってしまうと沿道が寂しいから、人の代わりにかかしを置こうよといってかかしを並べたりして、今はかかしが人気だったりします。

そのような大会ですが、これがどう新設されたかというとすごく簡単でした。そこに書いたように、大会を開くとなると交通規制の問題や自治体の予算、あと運営スタッフの確保というのがあって、中でも警察の許可を得なければいけないので交通規制が一番大変です。

たまたま私が2007年にふるさとで講演会を頼まれまして、講演後にいすみ市の市長や警察署長、いすみ市の体育協会会長とご一緒のテーブルで懇談会がありました。そこで、これから少子高齢化が進んで、いすみ市も高齢者が多いので、もっと元気にしなければいけないねということでどうしようかと話しました。そのときに、やはりマラソン大会を開くのがいいのではないかとということで、ここの四角の中は、「4人で酒の勢いで決まりました」ということです。

それで次のページを開いていただくとわかりますが、東京から特急わかしお号に乗って70分で行けてしまう、本当に緑豊かな田んぼ以外何もないところなので、身近な田舎をキーワードにやっけていました。そうしたら、やはり仕事で疲れた方が多いのでしょう。マラソン大会の開会式の注意事

項がただ一つで、田んぼに落ちこまないでくださいという中でやりますから、皆さんは何か癒しの里に来るみたいな感じで集まってくれて、今は5,000人が12月に来てくれるのです。

ふれあい会館という名の市民会館が会場になり、最寄り駅はふだん特急がとまらないのですが、J R東日本に協力を頂き、当日は特急を6本もとめてくれるのです。全国には、市町村の数だけマラソン大会があると言われて1,500ぐらいの大会がありますが、ランナーたちの投票によって行われる全国ランキングの中で、いすみ健康マラソンは昨年も25位以内に入っています。2015年が終わった後の調査では、ハーフマラソンの部門でいすみ健康マラソンは全国第一位になっています。3,000人から7,000人規模のマラソン大会の区分けの中でも全国第一位です。

そのような大会になりまして、決算を見ても、子どもたち以外の部でハーフの部など10キロ、5キロとあります。ハーフの参加料が3,800円という中で、ハーフランナーのことだけを考えたらほとんど運営費はこの3,800円で賄えます。ところが、市からお金が出ています。これは何のためかという、子どもたちのためです。子どもたちの参加料金が800円で、タイムもチップで自動計測しますし、参加賞もTシャツをプレゼントします。ですから、子どもたちの分がどうしても赤字になってしまいます。ですが、子どもにとって、少子高齢化が進んでいる自分の町に元気なランナーたちがいっぱい走りに来てくれて、自分たちも頑張って入賞したり優勝したらトロフィー、メダルがもらえるというこの舞台はとても大事なものです。そのため、市の予算は子ども達の体力向上に使われているという解釈をしています。

それで最後のページになりますが、運営スタッフは市の職員の他にも、体育協会や市の職員、消防団、女性の会、サーフィン業の組合などがボランティアで参加してくれます。それから地元の国際武道大学の方がランナーの足のマッサージや警備もしてくれ、総勢1,000人弱で行っています。私も月に1度、よりよくしよう、日本一の大会にしようということで故郷に足を運んで会議に参加し、また一緒にやっています。

では、結果として地域振興の効果はあるかという、経済効果は正直あまりありません。その日にお金を落としてくれる人は5,000人来ますから効果はありますが、それがずっと続くわけではありません。ですが、何があるかという、そこに書きましたように、地域が元気になる地域活性化という効果が一番あると思います。合併の後のいすみ市のPR効果であったり、旧3町の一体化であったり、また子どもたち、大人たちの体力づくり、健康づくり、元気づくりであったりということです。

私はこれまでは応援してもらう立場のランナーでしたが、何よりもこの大会を開催することによって、手をつなぎ合って一緒にやっていける、というつながりができることがとてもうれしいで

す。それで、みんなが元気になっていっているという実感を持っています。

### 地域全体が盛り上がるために

ちょうど2020年の東京オリンピック・パラリンピック、その前にはラグビーのワールドカップ、そして2021年は関西ワールドマスタースゲームズなど、本当にこれからスポーツで地域が盛り上がっていくと思います。それを上手に利用するという言い方はおかしいですが、いろいろな施策が動きやすくなっていくと思いますので、本当にそれに乗るような形で頑張してほしいと思います。

ただ、私はスポーツをしてきた人間なのでスポーツの持っている力というのを信じていますが、世の中には本当にスポーツの嫌いな人がいることも事実です。私の友達でも、あなたはスポーツスポーツと言うけれども、自分はスポーツと聞くとアレルギーを起こしそうなよね、という人がいます。

では、そういった人もいる中でどういうふうこれから盛り上がっていったらいいかというと、2020年の東京オリンピック・パラリンピックなどは、スポーツが嫌いな人でも、例えば英語が得意な人はその大会期間中に通訳として関わることができます。それから、ロンドンでもあったように、いろいろなボランティア活動で自分の持ち味というのを出すことができます。そして、お花が好きな人はお花を通して選手村や空港、大会の会場などを彩り豊かにして選手を盛り上げていくこともできるし、音楽や絵画で盛り上げることもできます。

このように、本当にスポーツが嫌いでも自分たちのやり方で加わっていける、参加していくことができるというのが4年後に向けていいことだと思います。

スポーツでどう自分の地域、区を盛り上げていくかは、多分議員の皆さんが一番区民の皆さんの近いところにいらっしゃって、声を聞いていると思います。そういう声を聞きながら、一緒になって東京オリンピック・パラリンピックに向かって進んでいけたらいいなと思いますので、またこれからもよろしくお願いします。

### 最後に

ちょうど1時間お話ししましたが、一方的にお話しするよりも多分皆さんのほうが話すのが得意だと思いますので、この後の30分間は足りなかった部分を突っ込んでいただいたり、あとは皆さんの考えていることなどもおっしゃっていただいて、またここでの交流の場所として使わせていただきたいと思います。

ご清聴いただきましてどうもありがとうございました。

## 〔質疑応答〕

【質問】お伺いしたい点は、いすみ市のマラソンですが、パラリンピックで障害のある方々が積極的にスポーツに参加していくということで、福祉の面でのスポーツへの参加という裾野の広い参加の仕方をやってほしいという機運が盛り上がってほしいなと思うところです。

例えばこのいすみ市のマラソンであれば、障害のある方々、例えば脳性麻痺がある方や目の不自由な方々が参加しやすくしているのか、障害のあるなしにも関わらず大会にどのような配慮があるのか教えていただければと思います。

【回答】いすみ健康マラソンもその辺はまだまだです。ですが、視覚障害者の方が来たときには、伴走できるスタッフは何人かいます。

あと、車椅子の方に対しての対応は、何せ道幅が狭いので完璧にできているわけではありません。むしろ、そういった方が来たときに考えていく、対策を練っていくという中でやっていますので、いすみ健康マラソンもまだまだです。ＪＲ東日本が特急をとめてくれる長者町駅からしてバリアフリー化が進んでいません。

大分国際車いすマラソン大会などは、先ほど話しましたストーク・マンデヴィル病院で研修をして帰ってこられた中村裕さんという先生が開かれていますから、もう完璧です。選手が来ても、開会までくたびれません。

東京も含めてですが、日本の大会会場はバリアフリー化されているけれども、まだ町がバリアフリー化していないから足を運ぶまでに疲れてしまう、という選手の声聞きます。そのためいすみ健康マラソンはまだまだですが、少しずつバリアフリー化の方向でやっていきたいと思います。

北区は東京都の障害者総合スポーツセンターがありますから、すごいですね。昨年も水泳やアーチェリーなどの大会を見に行きましたが、あそこは舞台ですからいろいろな面で先を行っているなと感じました。ＪＩＳＳ（国立スポーツ科学センター）もそうですね。いろいろ研究所なども一番で。

今のが答えになったかどうかわかりませんが、これからそういった障害者の方のことをもっと理解していくような場所をつくっていくのも大事だと思います。例えば、ロンドンパラリンピックでは、ゴールボールという、ボールの中に鈴が入っていてゴールに向かっていく競技で、強いと言われた中国を破って日本が金メダルをとりました。では、ゴールボールとはどういうスポーツだろう、というのを体験できる場面が増えるとまた理解が深まると思います。

また、視覚障害者のマラソンはリオデジャネイロオリンピックから正式種目になりますが、ではロープを使って伴走者とどのようなやり方で進んでいくのかなど、いろいろなことを体験する

場が増えるといいなと思います。

【質問】大変興味深いお話をありがとうございます。

私もパラリンピックのことと、あとロンドンでパラリンピアンといいますか障害者に対するどのようなスポーツの振興がなされてきたかということをお伺いしたいと思います。

まず、私自身ロンドンで4年間生活していたときには、正直なお話、ストーク・マンデヴィル病院の存在も知りませんでした。

それと、ロンドンのパブリックのプールなどは障害者用にはなっていなかったと記憶しています。同じく、私どもの区でもプールなどは障害者用にはなっておりませんし、やはり障害者の方々がスポーツをできるような環境がなかなかそろっていないかな、ということを自治体議員として実感しているところです。

もともと、弱者に対して全く心のバリアフリーがないイギリスではありますが、イギリス人の友人たちが、ロンドンオリンピックはすばらしかった、本当にイギリスじゅうが一つになったと言うのです。具体的にどう一つになったのかなと思っていたのが、今日、先生のお話で少しかいま見られました。

あと一つお伺いしたいのが、先生がご覧になってきて、どのように自治体が障害者の方々のスポーツ支援をロンドンオリンピックのときに整備をしていったのか、ということをもしご存じだったら教えていただきたいです。そのあたりを含めてご説明といいますか、教えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【回答】私は、大会を運営するプロデューサーやディレクターには教育プログラムのゲットセットのお話などを伺ったのですが、自治体がどういうことをしたかというのは取材不足です。そこで、ちゃんとお答えできませんが、イギリスの友達がみんなで大成功だったと言われたことについては、一人ひとりが大会を成功させるという気持ち以上に、自分が楽しんでいるという空気を肌で感じました。

例えば、これも写真に残しましたが、警察の方々、お巡りさんは警備しなければ、とかきちんと守らなければ、とか緊張感が走っていると思っていました。でも、お巡りさん自身がこんなふうにして楽しんだり、子どもに自分がかぶっている帽子などをかぶせてあげたりという感じでした。それから、オリンピック期間中もそうでしたが、パブリックの中では先ほど言ったゴールボールなどを小さな公園でやっていました。みんなを集めて、何日後にゴールボールの大会があるのだけれども少し試してみるかい、と体験させていました。あと、最初に写真で紹介しましたが、身体障害者

の方が小さな会場でコンサートを開いたり、自然にやっているような雰囲気、個々に楽しんでいるというのがありました。

そして、そういった空気があるから、パラリンピックの選手がメダルをとると自然に皆さんが寄ってきていました。これは、オリンピックではなくパラリンピックのメダリストにみんな寄ってきて写真を撮らせてもらったりしているのです。やはり、地域で盛り上がるというのはまず知ってもらうことであったり、何か日常生活の中に身体障害者の方とのつながりがないといけないと思います。これは選手村ではなく会場近くのショッピングセンターです。

【質問】先生、今日はありがとうございました。

先ほどいろいろ世界を知ることの大切さということで、イスラム教ではむやみに握手をしない、それからタイ、インドネシアでは頭をあまりなでない、というお話をいただきました。私たちが世界の人たちを知することは大事なことです、逆に島国であるこの日本のよさをどれだけ理解して4年後に来てくれるのかなという疑問が出ましたので、教えていただければ幸いです。

【回答】ロサンゼルスオリンピックがあった32年前、私はそこで失敗して途中棄権してしまったときに、元気になろうと思ってアメリカのオレゴン大学に2年間留学しました。それが30年ぐらい前ですが、そのころは、ブラジル人のチームメートが、日本はまだ刀を持っているのでしょうか、という意識でした。それでびっくりしてしまったのが、最近の様子を見ていると日本人よりもすごくよく日本のことを知っていて、むしろ日本はこんなにいい国だったのだということを外国人を通して知らされます。

そういったテレビ番組などが増えていますが、一昔前は日本のものづくりということに対して尊敬されて、という番組が多かったです。それが、先ほども言いましたように、小倉百人一首を日本人よりも丸暗記していて大会で優勝しているとか、お豆腐のこととか、それからお茶にしても合気道にしても書にしても、とあります。それは、多分特別な人かもしれないですが、昔とは随分違ってむしろ海外の人から日本のよさを教えられることが多いなと感じています。

ただ、これから日本のことを知ってオリンピックに来てもらいたいです。もっと日本はPRしたほうがいいですね。日本の自慢は何だと思いませんか。

【質問】自慢は、やはり思いやりの心、優しい心、そして、やおよろずの神が宿るというその感謝の心を持った日本人であると私は考えています。そして、争い事があまり好きではないという人間だと思いますが、いかがでしょうか。

【回答】本当におっしゃるとおりだと思います。

道を尋ねても優しく接してくれたなど、日本人の優しさには観光客の皆さんが感動されています。あとは、1分でも遅れるとアナウンスが入るという日本の電車の正確さです。ヨーロッパでは30分遅れても平気だとか。そういったきちんとしたところや、優しさや礼儀正しさはやはりいいです。モラル、武士道の精神などもあるのでしょうか。

【質問】 どうも今日はありがとうございます。

江戸川区には町会組織があつて、それが集まって連合町会というのがあります。各地域で10の連合町会があります。それで、江戸川マラソンもそうですが、私は六、七年ぐらい前から議会で、マラソンだけでその連合町会の対抗駅伝ができないかという提案をずっとしています。

私が考えていた駅伝は、小学生、中学生、高校生、と走る距離を変えます。江戸川区をくまなく回ると40キロぐらいあるのです。連合町会の人たちがそれぞれ選手を出して、江戸川区の隅々を回ってゴールが庁舎ということをやっと提案していますが、警察の警備や、一般道を走ることなど課題がたくさんあるのでしょう。

2020年のときに、江戸川区が葛西地域でのカヌー・スラローム競技の会場になるので、オリンピックのムードを盛り上げるためにもやったらどうかと言いました。その後どうなっているのか、という意味で昨年も駅伝のことを聞きましたが、検討してみます、という回答で終わってしまっています。だから、一番のネックは警察の許可です。どうやって警察を説得できるかをお聞きしたいなと思います。

【回答】 いすみ市の事例は田舎だから小さな集まりでできました。

江戸川区は、交通規制などが関係ない範囲で、河川敷などでの実施はできないのですか。

【質問】河川敷は荒川という大きな川がありますから、そこをずっと南下して海のほうに出まして、江戸川区全域を走るのを前提に考えています。先ほどおっしゃった板橋区Cityマラソンは、多分荒川を南下してきます。

【回答】 1万5,000人であればすごいですね。

【質問】 はい。私の場合は区内全域を回って庁舎に帰ってくるという構想ですから、町なかのいろいろな道路を使ってしまうという面で警察の許可が多分厳しいのかなとは思っています。

【回答】 警察の方と本当に志が一緒でないとだめですね。だから、熱意を持って、なぜその大会を開きたいかということなどを言っていくという積み重ねだと思います。

駅伝というのはたすきを渡し合いますから、本当にみんなが一つになるという面では大人も子どももいっしょにできるとてもいいスポーツだと思います。東京23区では、議員さんたちの中で

野球大会があるそうですね。だから、駅伝大会なども23区の中でやったりすると、またそれはそれでいいコミュニケーションができるのではないかなと思います。

有森裕子さんや高橋尚子さん、鈴木博美さんなどを育てられた名伯楽の小出義雄さんが、石原都知事のときに、日本の文化であんなに教育的なスポーツはないのだから、駅伝をオリンピックの種目にしたほうがいいですよ、とずっと言っていたらしいです。みんな自分のためだったら頑張れないけれども、待っている人がいるから力が湧いてくる、と。でも、僕の言うことを聞いてくれなかった、と小出義雄さんは言われていましたが、駅伝はいいです。

【質問】先生、どうもありがとうございます。今日のお話を大変楽しく聞かせていただきました。

先生は、現役のところから今まで、オリンピックの大会を視察等も含めて相当いろいろ見ていらっしやると思います。今日の講演タイトルの地域の活性化、ボランティアなど盛り上げ方、レガシーの残し方等で、今まで見てこられた中で印象的なもの、あるいは心の中に非常に残ったものなど、それといよいよリオデジャネイロのオリンピックが始まりますが、そちらに行かれていればそちらの話も少し聞かせていただければと思います。

【回答】今までのオリンピックの中では、ロンドンの話はいっぱいしましたが、ボランティアについて国を挙げて盛り上がっているなど勢いを感じたのはシドニーオリンピックです。

シドニーは、スポーツをやっていない人がいないぐらいみんなスポーツが好きです。公園に行ったらインラインスケートなどを大人も子どももやっていますし、民家では必ずバスケットのネットがあって誰もがボールを入れていたり、サッカー場ではボールを転がしていたりしました。スポーツパラダイスという感じで、スポーツ好きが多いなというのを肌で感じられたのがシドニーです。

子どもから大人までそうで、大人の方々はボランティアもすごく楽しそうに選手を励ましたり、私たちの仕事は、緊張している選手たちの心を和ませることよ、なんて女性の方々がいろいろ行っておしゃべりしながら盛り上げたりしていました。自分たちがスポーツ好きだから、というのが根っこにあるその応援の仕方、サポートの仕方というのは心がこもっています。それをすごく感じました。

野口みずきさんが金メダルをとったアテネオリンピックのときは、本当に始まるのかなと思いました。普通、選手は早目にコースを試走したいのです。感覚をつかみたいのだけれども、なかなかぎりぎりまでコースができません。どうしてかというと、少し拡張工事しようと思って掘ると遺跡が出てきてしまい、考古学者の方が飛んできてストップされてしまいます。大丈夫かな、始まるかな、と本当にみんながドキドキして見守ったのがアテネオリンピックで、やはりいろいろその場所

であります。

でも、アテネオリンピックの場合には、オリンピック発祥の地だからすばらしいものにしなければいけない、というプライドが運営側にもありました。やはりそういった人々の思いというのは、私たちが関わる中で空気を感じることができます。

リオデジャネイロはまだ行っていません。昔、20年ぐらい前に大会で行きましたが、あのころはクルザード（ブラジルの旧通貨単位）でお金の価値も日によって違いました。また、川のこちらの街に近いところにはベッドルームが5つくらいある家があって、川の向こうの家は紙でできているのだよと言われて、貧富の差や治安の問題に驚いた記憶があります。ですが、もうワールドカップも成功しています。サッカーワールドカップがいいリハーサルになったからオリンピック・パラリンピックは成功させるよ、とリオデジャネイロのお友達がよくメールをくれます。

同じオレゴンでスポーツをしていた800メートルの選手が、今はリオデジャネイロオリンピックの組織委員会の幹部になっています。それも日本と違います。日本は、元選手がそのポジションにいけないのですが、そういった人が重要なポストに就いています。

【質問】ありがとうございました。本当に情熱を持ったお話で、心に響いております。

いろいろ区長をはじめさまざまな取組を紹介していただきありがとうございました。江東区もやはりレガシーということもさまざまに確認していて、その中でまちづくりについて、またバリアフリーに対しても心のバリアフリーなど進めています。教育の面でも今推進をし始めています。

その中で、先ほど世界を知るというお話がありました。おもてなしということに対しては、教育の面では英語教育がありますが、それだけではないと今後の取組で1つ思いました。これから教育の面に向けての計画を立てていきます。それをまた全校に広げていこうという計画があるのですが、その中で子どもたちの教育に向けてのスポーツ、またオリンピックのレガシーとしてどんな取組を盛り込んだほうがいいかご意見をお聞かせください。1点だけお願いいたします。

【回答】ありがとうございます。

江東区は、「Sports Garden」というキーワードでやられていますね。教育の中にこれからどう盛り込むかというところでは、もちろん英語教育も大事だと思いますが、それこそおもてなしの中では英語だけではないなと思います。世界標準語の英語だけではなくて、フランス語や中国語なども含めて、ある程度、「こんにちは」や「ありがとう」など、道で会ったときに日本人は優しいなと思ってもらえるぐらいのレベルの言葉というのがコミュニケーションとして大事だと思います。

それから、やはりせっかくだすから、今日たくさん時間を割いてしまいました障害者スポーツを

ぜひ歴史も含めて子どもたちに理解してほしいなと思います。1948年にストーク・マンデヴィル病院でアーチェリーの大会があったとき、まだ日本では同じ脊髄損傷の方々は運動をしなかったもので、せっかく戦争から生きて帰ってこられたのに感染症や尿毒症などの病気で亡くなってしまうこともあったそうです。始まりも違いますが、ロンドンの取組など、それからパラリンピックへの関心が深まるような授業が増えればいいなと思います。

【質問】先生、今日はどうもありがとうございました。

この間、32年ぶりに男子水球がリオデジャネイロオリンピックに行けることが決まって非常に沸いておりますが、こうしたマイナースポーツを少しメジャーにしていくための取組はどんなことが考えられるのか、教えていただきたいと思います。

【回答】皆さんの中で、今度、リオデジャネイロオリンピックで日本が32年ぶりに水球で出場すると知っている方は少ないと思います。

だから、知らせることも含めて、今こそSNSなどでどんどん魅力を発信したり、ルールのことなども覚えてもらったりと、広めていくことができるのではないですか。マイナースポーツというのは、スポーツ庁ができて、前よりも随分お金は国から地域のほうにも出るようになっていきます。ですが、まだまだ予算というのが、前のオリンピックでどれだけメダルをとったかが基準になっておりていきますので、水球などはまだ選手が思うように合宿などに行けていないのではないかと思います。

私がこの前、北区にある東京都の障害者総合スポーツセンターに行って取材したとき、アーチェリーの選手も、リオデジャネイロのパラリンピックの出場権を得る大会に出場するため自腹でこれからドイツに行くと言われていました。だから水球なども、興味を持ってもらうだけではなくて募金活動なども促せるように、何か今の時代のものを使ってやっていかれるといいなと思います。

【質問】葛飾区も、大変うれしいことに昨年の3月から第1回目の「かつしかふれあいRUNフェスタ」というマラソン大会を始めることができました。荒川の河川敷を使ってスカイツリーを横に見ながら走らせていただいています。当日は終わった後、地域の銭湯に1時から開場してもらい手ぶらセットを配ったり、チケットを持って行けば地域の飲食店街で10%引きになるようなアイデアも盛り込んで取り組みました。今年も3月13日に第2回目を開催します。もっとこのマラソン大会で地域の活性化が図れればいいなと思っています。さらに地域活性化の事例がありましたら、ぜひ教えていただけたらありがたいと思います。

それともう一点は、私も実はマラソンを走ったことがなかったのですが、第1回目ということで何とか挑戦をしようと半年間練習を朝5時半からしまして、昨年当日はハーフマラソン21キロを走らせていただきました。本当に死ぬかと思いました。

その1カ月前に三郷市で10キロマラソンにまず挑戦をしたとき、沿道のボランティアの方がものすごくたくさん出ていただいていた、お巡りさんにまで頑張れ頑張れと声を掛けていただいていた、その励ましで走り抜くことができたということがありました。

ですから、我が区としても、もっとボランティアの皆様を募っていきたいと思っていますが、働きかけをどのようにしたらいいかその点もアドバイスしていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【回答】葛飾区はランフェスタが2回目ですごいですね。葛飾区は、葛飾柴又ロードレースというのも区のほうでやられて盛んです。

ボランティアの方々を増やすためには、やはり呼びかけだと思います。

昔、笹川スポーツ財団でリーダーをつくるというボランティア研修をやって、東京マラソンをきっかけに増えた人たちが、随分散らばっていろいろなところで声掛けをしています。多分ボランティアの窓口があると思いますので、そういったところにも声を掛けたりしていくといいと思います。

東京都は本当にボランティアがすばらしいです。4年後に向けては、パラリンピックの成功と、あとはボランティアを充実させるということを都知事も言われていますので、窓口を見つけて、みんなでまたそちらのほうも広めて次につなげていただきたいと思います。

【質問】本日は、いろいろお話をいただきましてありがとうございます。また、江東区の事例についてもたくさん紹介していただきまして本当にありがたいです。

先ほども質問がありましたが、江東区ではやはりオリンピックをキーとして、「SPORTS & SUPPORTS」、人情が熱いというキャッチフレーズのほうも入れてブランド戦略なども進めていくということで、今非常に施策については全区を挙げてやっているところです。

それで私としては、オリンピックを迎えるに当たって、言葉や文化の違いをどのように乗り越えてホスト国で地域として、もてなして受け入れていくべきかというのがすごく大事なことだと考えています。子どもに関しては、英語教育やオリンピック・パラリンピックの触れ合いなども学校教育の中で進められています。大人については、シーサイドマラソン大会の話が先ほどありましたが、運動が嫌いな人や苦手な人などいろいろな方がいます。その中で、オリンピックにどう関心を持っておもてなしできるような体制をつくるのかということが必要だと思っています。

それで、ロンドンと東京が違うところというと、やはり言葉の面が非常に大きいと思っています。英語圏と非英語圏といった違いがあると思いますが、こうした違いがある中で日本人も奥ゆかしいところがあるので、なかなか外国人に対してフレンドリーに話しかけられても言葉を返すことができなかったり、いろいろなバリアがあると思います。そういったものをどのように乗り越えて、まちづくり、おもてなしできるような地域づくりをしていくのかというところについて、先生のお考えのほうをお聞かせいただければと思います。

【回答】言葉や文化の違いについて、英語教育もおもてなしということもやられていますし江東区は盛んですね。あとはもう時間を割いて知っていくことしかないと思います。

今、言葉の面も言われましたが、フレンドリーということで思い出すのは、やはりハグもそうです。欧米の人は、いきなり「こんにちは」と言ってハグしますが、千葉にいる私の父がいきなりハグをされたら拒否してしまうと思います。こういうふうに拒否してしまわないように、ハグというのはコミュニケーションで「おはよう」と同じみたいなことに、子どもだけでなく大人が慣れていくことが本当に大事だと思います。

今、これだけ海外の方々が東京にもよく来ていらっしゃるので、できるだけ自分から進んで話しかけていくことです。コミュニケーションをとっていくということも多分その国の人を知ることになるので、英語が怖くて避けるのではなくて、慣れていくことが大事なのではないでしょうか。

江東区は、英語の授業はやはり英語圏の方々が指導してくださっているのですか。

【質問】そうですね。子どもの授業では、外国人の方がいらっしゃるというのはありますが、大人がどういうふうな形で触れ合っていくのが私は課題と考えています。

【回答】そうですね。どんどん積極的にこちらからアプローチして、コミュニケーションをとっていくのもいいと思います。